OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | ＜図書紹介＞『人間交際術』 |
| Author(s) | 中, 直一 |
| Citation | 大阪大学言語文化学. 1994, 3, p. 173-174 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/78160 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

アドルフ・F・v・クニッゲ著、笠原賢介・中直一訳『人間交際術』、講談社（学術文庫）、1993年12月、621頁、1400円(本体1359円)。ISBN 4-06-159103-7

今から200年も前に書かれた本ですから、内容上古いのは当然ですが、今読んで通用するところもあるようです。私など、つい「女性との交際について」という章から読みたくなるのですが、社交界の花形であった著者クニッゲ氏は次のように言っておられます。「女性の前では、他の女性のことを賞賛しすぎないように」。「女性には、皮肉を言って喜ぶ傾向がある」。本当かどうか、女性心理にうとい私には判断のしようもありませんが、本書のこの箇所を目にした女性読者が思わずニヤリとしたのを、私は2度ほど目撃しております。

内容上古いところがある、と申しましたが、古いところは、歴史的文書として読めば、それなりに18世紀のヨーロッパの人々の生活ぶりがほの見えて参ります。秘密結社のメンバーとの交際法を書いた章からは、フリーメーソンの流行した当時の時代状況が見えて参りますし、宮廷での振る舞い方を論じた章には、厳しい身分の上下関係の中で宮廷社会を泳いで行かざるを得ない中流貴族の悲哀が感ぜられます。さしずめ現代の中間管理職サラリーマンがこれにあたりましょうか。

この本だけ読んでも、いろいろと面白いわけですが、森鴎外の『知恵袋』と並べても、また別の読み方が出来ましょう。鴎外は『人間交際術』をタネ本にして『知恵袋』を書いたのですが、さすがに鴎外だけあって、原本の趣とはまた違う、独特の味わいを出しています。たとえば、さきほどの「女性には、皮肉を言って喜ぶ傾向がある」という箇所も、鴎外の手にかかれば「婦人の調謔を好むことの甚だしき、時に己の親むところの人に苦痛を覚えしむることを避けざるに至る」と、見事に変身してしまう次第です。

翻訳の裏話をいたしますと、鴎外がすでに翻訳・翻案を出しているのですから、それを参照すればよさそうなものですが、敢えてそれはしませんでした。というより、怖くて出来なかった、というのが本当のところです。鴎外の存在があまりに大きいので、もしも鴎外の文章を参照すれば、かならずやそれに引きずられるにちがいない——そう思ったわけです。

それにしても、翻訳に6年も7年もかけ、ようやく出版にこぎつけたわが身を振り返るに、いまだもってウダツのあがらぬドイツ語教師、いやはや社交術というのは、読むに面白くても、実地に応用するのは、なかなかむずかしいようで……

(中直一[2])。

[2] 言語文化部ドイツ語教育講座